思ひ。咱今御前へまかり出。御勸解のよしは最易けれど。などか柴田と憑せざる「謂せの如く柴田殿へ。今日無類の功といひ。這人ならで萬の事。睥睨の稱えぬとてへなけれど。素より小子渠の人の。心に染せてありされば。小子一個柴田殿の御陣へ参るも憚ある由を。足下に攙撥と頼みのありといふに林へいらし怜を。然バ柴田が陣營へ伴ひ。勸解と憑をのなさんに。いざ来れへとて忙がはしく。彼所に到て權六に。對面なし。藤吉郎が稟せし如く。憑むよしと告ければ。柴田も大に意解。奈何にも素より藤吉郎。挿嘴は吐との。君のために忠とそあれ。不忠になるべき事もせざれバ。切悪しといふもあらず。這遍の欽藉に東西懲して。己後過言せぬといふ詞の誓に相違なくべ。渠が心ならず可愛し。先教訓といひ含め。然して御前とりなさん。と藤吉郎と呼出しいふやう藤吉郎。口ハ禍の本なる言。方僅こそ思當てつらめ。老臣達の順次も待ずまで意の随に挙止なして。傍若無人の事どもと。己后ハよく謹惶。みだりに発言すべからず。と言懲をなぞ。木下も赤面の態となし。最ありがたき御教訓。骨髄に徹しておぼへれ。倘存生てありもせバ必御恩と存ずべし。戦死なさバ泉下より身影を護りまゐらせん。と涙ながらに嘆くなぞ。有係に猛き鬼柴田も。そゞろに憐憫なつ。然バ御勸解のなさんと。藤吉郎と伴ひて。信長の御前へ出。勝家謹でまをす。秀吉先日。評定の席にありて。過言なせし咎により。御欽藉を奉命とも。實に後悔千万なり。